

天国と地獄：安易に学会に参加するなかれ

2000年10月1日

西條辰義

9月30日から10月1日にかけてつくばで開催された環境経済・政策学会に参加した。地球温暖化のセッションの座長を引き受けたのである。私は学会員でもないのになぜ座長を指名されたのか釈然としないまま、そういうこともあるだろうということで学会に参加したのである。

30日の夕方、懇親会の直前に慶應大学の山口先生に出会った。「学会員でもないのに会費や懇親会費など変ですねえ」などと先生に尋ねると、先生曰く「非学会員をおよびし、学会で座長などをお引き受け願う場合には、交通費・宿泊費を含めて学会持ちになるんです」とのこと。「こりゃしめた！」と思ったものの、こんなことを大袈裟にいうのはしたくないと思っているうちに、山口先生が、今回の大会を主催なさっておられる国立環境研の森田先生に事情を説明なさっておられた。森田先生は、丁寧に「申し訳ありませんでした。さっそく交通費・宿泊費を含めてお支払いします」とおっしゃられた。ただ、「うちのほうで会員かどうかちゃんとチェックしているはずなんですが…」とのこと。いずれにせよ、これで息子の夢であった自転車をかけてやれるとほくそ笑んだ。この会話の中で、95年に筑波大学から大阪大学に移籍した頃、複数の新しい学会から勧誘を受け、名前だけでもということで、会員になった記憶がよみがえった。そのひとつがひょっとすると「環境経済・政策学会」だったかもしれない。このことを森田先生に申し上げると、「いずれにせよ、きちんと調べます」とのご返事。そういえば、さきほどの佐和会長も挨拶の中で学会が誕生したのは95年とおっしゃられたような気がする……

翌朝、森田先生と会場でお会いした。先生はご持参の学会員名簿を広げて私の箇所を示された。まぎれもなく、私の筑波時代の懐かしい自宅の住所が掲載されていた。その後、立て続けに2回ほど引っ越しをしたので、郵便物は届かなくなったのであろう。最近は温暖化の話など、環境問題にもかかわっているのだから、これを機会に悔い改めて5年間の滞納費をきちんと収めて、身も心も学会員にならざるを得ないということで森田先生に決意表明をすると、先生は「これまでのことはともかく、今年から会費を納めていただくということで私のほうから事務局にお願いしておきます」とのおやさしいお言葉。

複数の学会といったがそのうちのひとつが進化経済学会である。筑波時代、社会科学系のどなたかに誘われて、会員になったような気がする。この6月頃、とうとう会費督促の案内がきた。進化経済学会は、感心なことに私が筑波から大阪に移籍したことをきちんと把握なさっておられる。情報網がしっかりしているようである。

今春、進化経済学会主催の国際会議の一環として函館未来大学の川越先生を中心に実験経済学のコンファレンスを開催していただいた経緯もある。ただ、この会議以外は、進化経済学の学会員としてコンファレンスなどに参加したことはない。最近は地球温暖化の話にかかりきりで、進化経済学会のために何のコントリビューションもできないことを情けなく思っている。組織もしっかりとして活発に活動なさっておられる進化経済学会からルベ-グ・メジャー・ゼロの私の名前が抜け落ちても何の影響もないので、こちらは督促金を支払い脱会した。

新しい学会ができる度ごとについふらふらと頼まれるまま会員名簿にサインをする。学会員としての活動はゼロであったとしても、これが後々学会費未納という形で「お返し」ではなく「仕返し」をしてくることになる。<安易に学会員になるなかれ>